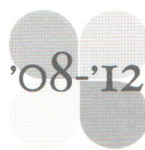
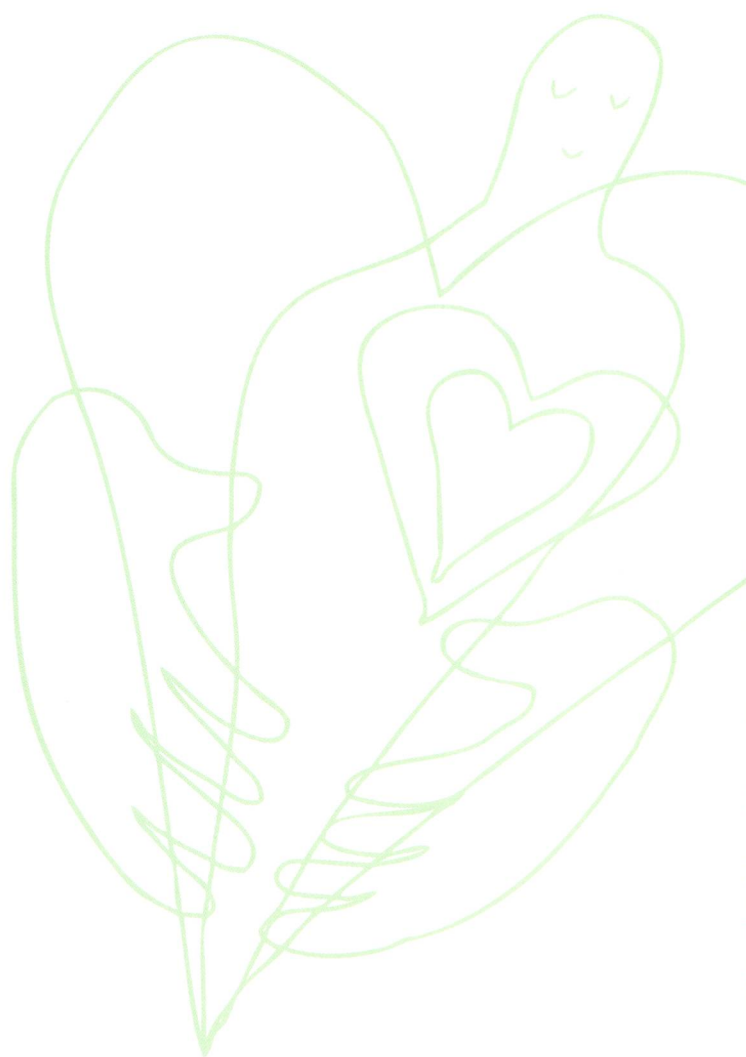


2009 Vol.

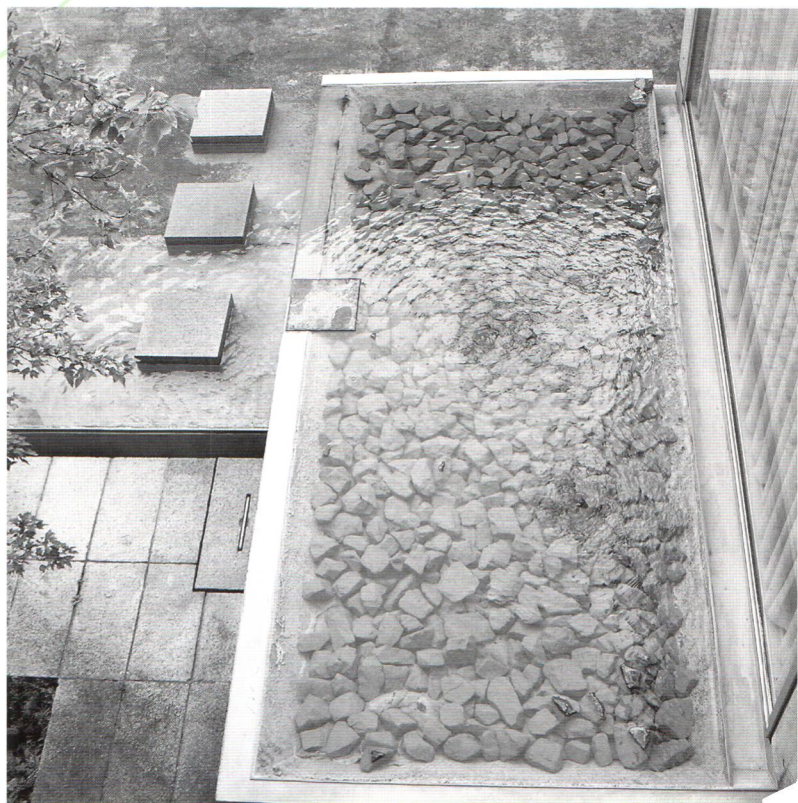
16



文部科学省私立大学
戦略的研究基盤形成
支援事業採択



寒い日が続いていますが、来るべき春に向けて
甲南大学人間科学研究所の今年度の活動は
いよいよ佳境に入っています。
昨年4月に始動した4つのプロジェクトも軌道に乗ってきました。
ニュースレター第16号では、心理臨床カウンセリングルーム・
学生相談室と連携して行っている実践活動から、
その活動報告をお届けします。





人間科学研究所と学生相談室が毎年共催している園芸療法研修会は、今年で6回目となります。今回は、「園芸」という枠組みにとどまらず、その背景をなす「自然」というテーマにまで踏み込みました。講師には、北海道で土木コンサルタント会社の河川技術者として川と関わっている岩瀬晴夫氏（株式会社北海道技術コンサルタント・川づくり計画室室長）をお招きし、長年にわたって川とつきあう中で培われてきた自然物との関わり方についてお話しいただきました。氏の「川という自然物」との関わり方には、「心という自然物」と関わる心理臨床家の視点との深い関連が感じられました。また体験不足と言われる現代の人間が自然と関わるこの意味についても、重要な示唆が得られた講演会でした。

氏は、1990年に当時の建設省から出された「多自然型川づくり」の通達をきっかけに、「自然な」川を「つくる」という一見矛盾した問題に取り組むことになりました。自然とは何かという問題に直面しながら、様々な試行錯誤を繰り返してきたそうです。氏が行うのは「見直し」、すなわち一つの工法を試してはその経過を観察し、そこから得られた知見を元にまた新たな工法を試行するという循環的な方法です。この中では、理論を先行させるのではなく、実際に現場で自分自身の身体を使って自然のありようを感じ取ることが重要だといいます。その大切さを、実際の川との関わり方の例を引きつつ示していただきました。

自然物を扱うときに必要とされる知を言語化することは、自然の複雑さという点からも多様さという点からも困難でしょう。この状況の中で氏は「自然物は必ず振動する」ということに気がきます。振動する身体と振動する川とがいわば「共振」を起こします。そしてそれが日常では感じることのない身体の「違和感」として意識されることに気付いてきたのです。この「共振」を感じとるためには身体の感受性を高めておくことが必要であるという点、そして身体での感受のためには理論を先行させることや、自然科学的な発想をすることは、むしろマイナス要因として働くという点についても、多彩な例を挙げて論じてくださいました。

講演後の質疑応答では、学生相談室相談員からも発言がありました。学生相談室では、園芸療法の枠組みの中で学生に見る・聞く・触るという体験を積み重ねることを目標に様々な取り組みを行っています。しかし、土に触ることを嫌がるような、いわば体験との通路が閉ざされている学生が年々増えてきており、その対応についての質問が出されました。これに対して岩瀬氏は、個々人が自然の何に共感しうるかは千差万別であるから、それぞれの学生が何に共感できるかということを一ひとつひとつ探していくしかないのではないか、そして、自然との共感とは人類が500万年かけて培ってきたものであり、そう簡単には消えないのではないかと答えられました。

自然とつきあうために有効なことは「実態、事実に触れること」「煩わしさを許容すること」です。これらは心理臨床において有効なことと重なっています。さらに、キーワードとして挙げられていた「多くの稀な例」や「見方と見え方」ということばをめぐっては、氏の議論の「川」を「心」と読み替えると、驚くほどに心理臨床の現場で臨床家が感じる事との共通点が見出されます。同時に、氏が見せてくださった、現場と密着しつつ妥協せずに探求する姿勢や、「分かった」と思い込むことへの禁欲は、あらゆる分野における「探求」のために非常に参考になるものでした。

園芸療法研修会 自然と接して学んだこと



講師：岩瀬 晴夫

(株)北海道技術コンサルタント川づくり計画室長

日時：2008年12月12日(金) 午後4時30分～

場所：甲南大学18号館3階講演室

共催：甲南大学学生相談室

思春期発達支援事業 フレンズクラブ



企画：南野 美穂

KIHSリサーチアシスタント

開期：年間2クール 5～7月・10～12月

各クール10回期間中の毎週水曜日

場所：18号館2階演習室1

カウンセリングルーム集団療法室

共催：甲南大学心理臨床カウンセリングルーム

人間科学研究所では心理臨床カウンセリングルームと共催で思春期発達支援事業を行っています。そのひとつがフレンズクラブです。現在、開始から丸3年が経過しており、少しずつ成果が見え始めています。ニュースレターでは、この活動の概要を紹介しつつ、これまでの歩みを振り返ってみたいと思います。

発達がアンバランスな思春期の子どもは、同年代の友達と対等な人間関係を築くことが難しい場合があります。フレンズクラブでは、そうした子どもたちの特性を個々につかみ、彼らの育ちを促進しながら、人と関わる場を提供し、将来の不要な困難を少しでも軽減することを目標に活動しています。

対象は、発達にアンバランスを抱える小学校5年生～中学校3年生の子どもとその保護者です。子どもと保護者のグループワークが、別々の部屋で同時に行われています。1クールは10回で年間2クール(5～7月、10～12月の週1回)開催です。1クールの参加者は4～7組で、現在、第8クールまで終了しています。初参加の親子にはグループワーク参加以前に親子別のインテーク(受理)面接を行い、また、各クール終了後には参加している親子全員に個別フォローアップ面接を設けています。

子どもグループでは、刺激にすぐ反応する子ども、こだわりが強く、自分の好きなことに過度に集中する子ども、対人関係のスキルが未発達なために、友達とのやり取りに自信をなくしている子どもなど様々な特徴を持った子どもが参加しています。各子どもに1～2名の大学院生のサポーターが付いて組になり、その組同士でいろんな遊びを行います。子ども達はサポーターに見守られ、場面に応じて適切な振る舞い方を教えてもらいながら、それぞれが自分に合った形で仲間との関わりを経験しています。

保護者グループでは、1～2名のファシリテーターの舵取りのもと、ストレス軽減のためのワークやペアレントトレーニング(*)のプログラムも取り入れつつ、子育て上の悩み、学校との関係の作り方、将来の自立に向けての情報ややり取りの方法などを、それぞれの参加者の体験に近いところで話し合っています。ペアレントトレーニングの実施により、意識して子どもへの対応を変えれば子どもが変わってくることを発見しました。参加者は、ほどよくストレス解消しながら、ほどよく学習し、この規模のグループとして無理のない当事者同士のサポートの場となりつつあるように感じます。

スタッフは全員が臨床心理学を学ぶ大学院生であり、子どもたちとの活動は研修としても機能しています。ミーティングでは、一人一人の子どもに今何が必要で、今後どういったことが課題になるかを検討し、情報を共有しながら、真摯に子どもに向き合っています。子どもたちがサポーターについて言葉にすることはほとんどありませんが、保護者からは「お兄さん、お姉さんが、自分を受け入れて一緒に活動してくれることがうれしいようだ」という声が聞こえてきます。また、2007年度はADHD児の親の会「えじそんくらぶ奈良ポップコーン」代表の楠本伸枝氏に発達障害を持つ子どもの子育てを語っていただき、2008年度は奈良教育大学の岩坂英巳教授にペアレントトレーニングを教えていただきました。このように折に触れ、研修も行っており、スタッフの学生は学習と実践を通じて、着実に対人援助の力をつけているように思います。

これからのフレンズクラブを、子どもたちの育ちがより促進され、またスタッフの学生も臨床心理士を目指しより成長できるような活動の場となるように育てていきたいと考えています。

(*)子育てに取り組む親(養育者)が、その役割を積極的に引き受けていくことができるよう、実践的なワークを通して学ぶために開発されたもの。

これまでの活動

公開研究会

プロジェクト2. 育てる関係の危機と子育て意識の多相性についての研究
第43回 大学サテライトにおける支援システムの評価と展望
 —カナダBC州における地域家庭支援の実態から—
 開催日: 2009年1月19日(月) 18:00~
 講師: 伊藤 篤 (神戸大学/子ども家庭支援論)

プロジェクト1. 加害-被害関係の多角的研究
第44回 PTSD治療における身体症状の扱われ方
 —デンマーク、ノルウェーの場合—
 開催日: 2009年1月23日(金) 16:30~
 講師: ラルフ・フツェラール
 (オランダ戦争資料研究所・関西学院大学COE研究員)
 通訳: 森 茂起 (甲南大学/臨床心理学)

研修会

第6回 園芸療法研修会
自然と接して学んだこと
 開催日: 2008年12月12日(金) 16:30~
 講師: 岩瀬 晴夫
 ((株)北海道技術コンサルタント川づくり計画室長)

その他の企画

研究計画会議 (研究員による会議)
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択を受けて
 開催日: 2008年11月16日(日) 14:00~
 プログラム: 第1部 全体会議
 各プロジェクトの趣旨・進捗状況・今後の展望
 第2部 班別会議

これからの活動

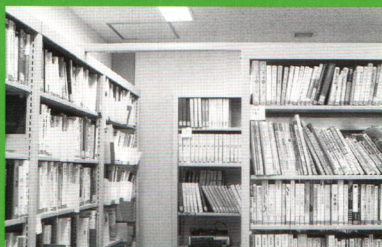
公開研究会

プロジェクト3. 芸術学と芸術療法の共有基盤確立に向けた学際的研究
第45回 パーソン・センタード表現アートセラピーの根幹
 開催日: 2009年3月13日(金) 16:30~
 講師: シェリー・デイヴィス
 (表現アートセラピー研究所顧問/表現アートセラピスト)
 通訳: 富田 香里
 (通訳・翻訳家・表現アートセラピートレーニング修了生)
 協力: 表現アートセラピー研究所

研修会

第6回心理臨床ワークショップ
解離性障害の心理臨床
 開催日: 2009年3月15日(日) 10:00~17:00
 講師: 細澤 仁 (兵庫教育大学/精神医学・臨床心理学)
 定員: 30名 (※申込についてはお問い合わせください)
 共催: 甲南大学心理臨床カウンセリングルーム
 後援: 兵庫県臨床心理士会
 対象: 臨床心理士もしくは心理臨床業務に携わる方

発行年月日: 2009年1月30日



編集後記

今年度から始まったプロジェクトでは、それぞれに調査研究も大きな柱となっています。さらに、来年度からは公開シンポジウムの開催や叢書の出版など、活動は目白押し。資料でギュギュギュッと詰まってくるKIHSの空間が、その様子を象徴するかのようです。ここで働くわれわれが押しつぶされないように、皆様からのご声援をお待ちしております。